

平成 30 年度
「秋田市 6 次産業化に関する意向調査」
報告書

平成 30 年 11 月 27 日

秋田市産業振興部産業企画課

目 次

第 1 章 調査の概要	P 1
第 2 章 調査結果	P 2
1 農業者	P 2～19
2 食料品関連事業者	P 20～29

調査結果の概略

農業者の調査結果をみると、秋田市の生産の中心は稲作となっている一方、加工に取り組んでいる農業者（「自分で」または「他社に委託して」）が加工している農林水産物は野菜である場合が多くなっている。また、現在加工に取り組んでいる農業者は全体の1割未満と少ないものの、その多くが今後の取組にも前向きな意向を示している。

現在加工に取り組んでいない農業者のうち、今後の加工に積極的な意向を示す農業者は2割以上となっている。農業者が自ら生産した1次製品の加工や商品開発・改良に取り組む上では、「商品開発・改良に関する技術的なアドバイス」や「加工のための機械設備の導入に対する経費補助」などの行政支援が求められている。

「6次産業化」という言葉の認知度は9割近くと高く、秋田市の6次産業化を進めようという取組を有意義だとする意見も過半数を占めている。一方、「グリーン・ツーリズム」の認知度は6割台、「農家のパーティ」の認知度は3割弱と、「6次産業化」の認知度に比べて低くなっている。

食料品関連事業者の調査結果をみると、原材料や商品のうち一部でも秋田市産農林水産物を「使用している」事業者が全体の7割近くと高い割合となっており、このうちの半数以上が今後の使用量を増やしたいと答えている。

秋田市内や秋田県内の農林水産物を活用した商品開発については全体の8割以上が、秋田市内や秋田県内の農林水産物を活用した既存商品の改良については全体の7割が、それぞれ積極的意向を示しており、こうした取組を進める上では「商品開発・改良に対する経費補助」、「製造・保管のための機械設備導入に対する経費補助」、「商品開発・改良に関する専門的なアドバイス」などの行政支援が求められている。

「6次産業化」という言葉の認知度は9割近くと高い一方、「農家のパーティ」の認知度は3割台にとどまっている。

第1章 調査の概要

1 目的

本調査は、秋田市における6次産業化に関する意識、取組状況、地元産素材の活用状況等について、農業者、食料品関連事業者を対象にアンケート調査を実施し、秋田市6次産業化関連施策の推進に向けた資料を作成することを目的に実施するものである。

3年ごとの経年変化を把握するものであり、平成24年、平成27年度にも同様の調査を行っている。

2 調査概要

- (1) 調査期間 平成30年8月6日（月）～8月31日（金）
- (2) 実施方法 郵送によるアンケート方式
- (3) 対象件数 744件（前回658件）
 - （内訳）①農業者 640件（前回563件）
 - ②食料品関連事業者 104件（前回95件）
- (4) 回答件数／回答率 511件／68.7%（前回351件／53.3%）
 - （内訳）①農業者 454件／70.9%（前回317件／56.3%）
 - ②食料品関連事業者 57件／54.8%（前回34件／35.8%）

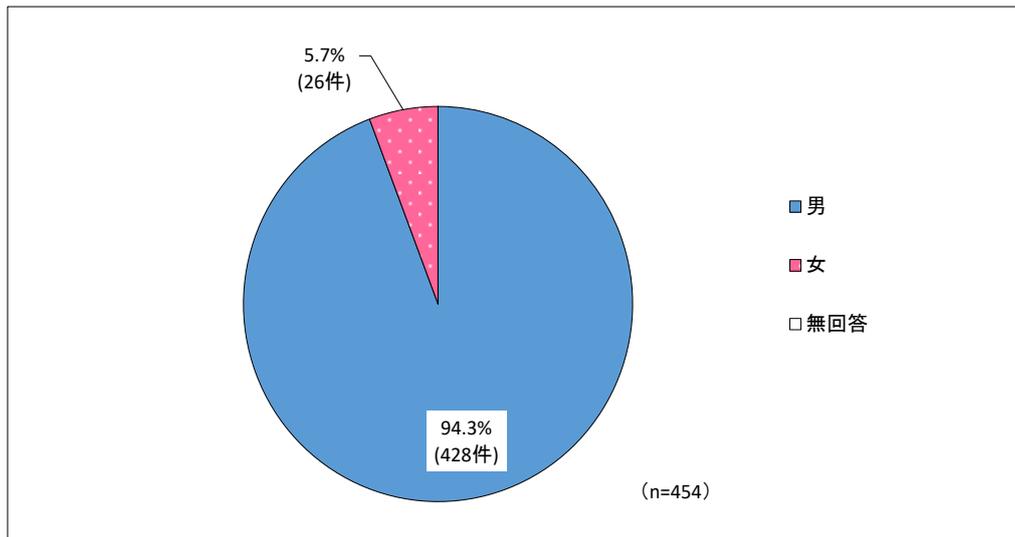
第2章 調査結果

1 農業者

あなたご自身について

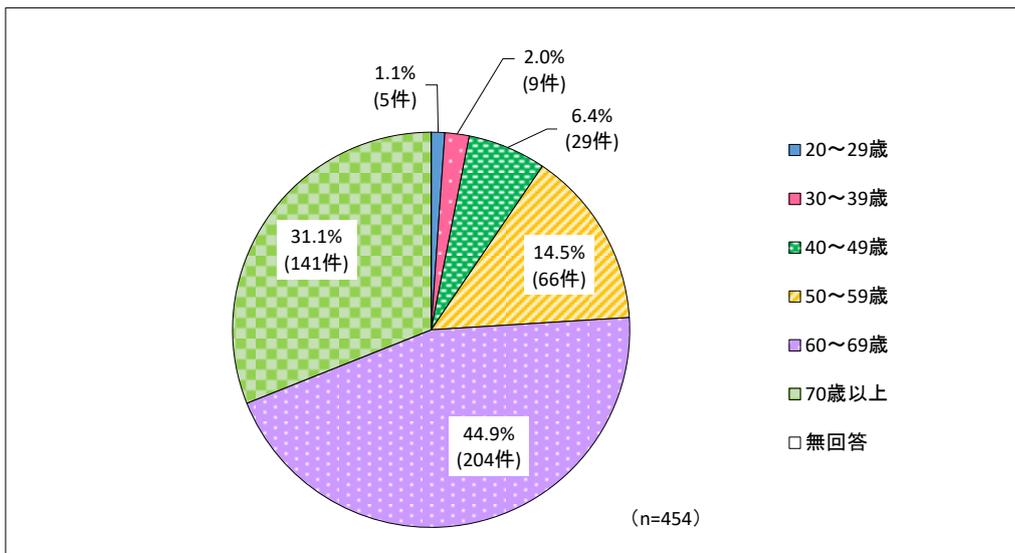
問1 (1)性別

「男性」が94.3%と多く、「女性」は5.7%とごく僅かとなっている。



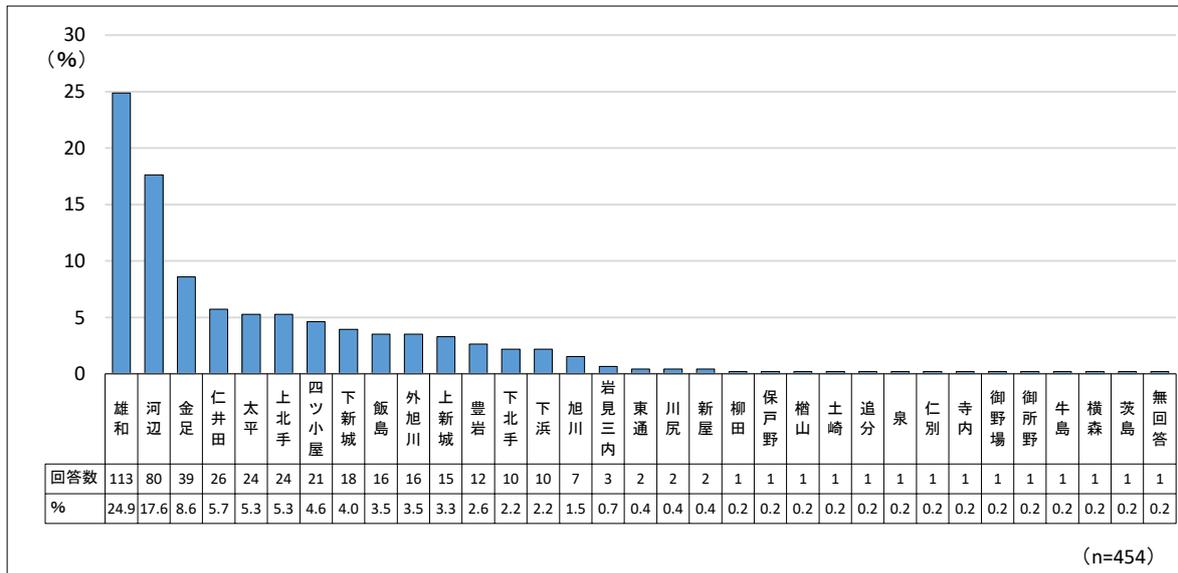
(2)年齢（平成30年6月30日現在）

「60～69歳」が44.9%を占め最も多い。50歳未満の各年代の割合を合わせると9.5%と全体の1割未満となっている。



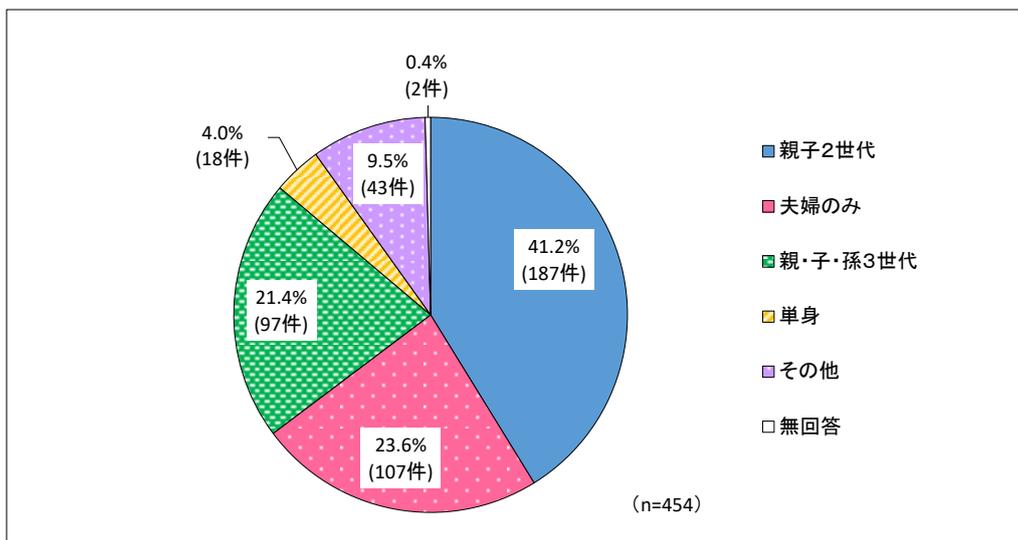
(3) お住まいの地区名

雄和地区が 24.9%で最も多く、次いで河辺地区が 17.6%で続いている。その他の地区はすべて 1 割未満となっている。



(4) 同居家族構成

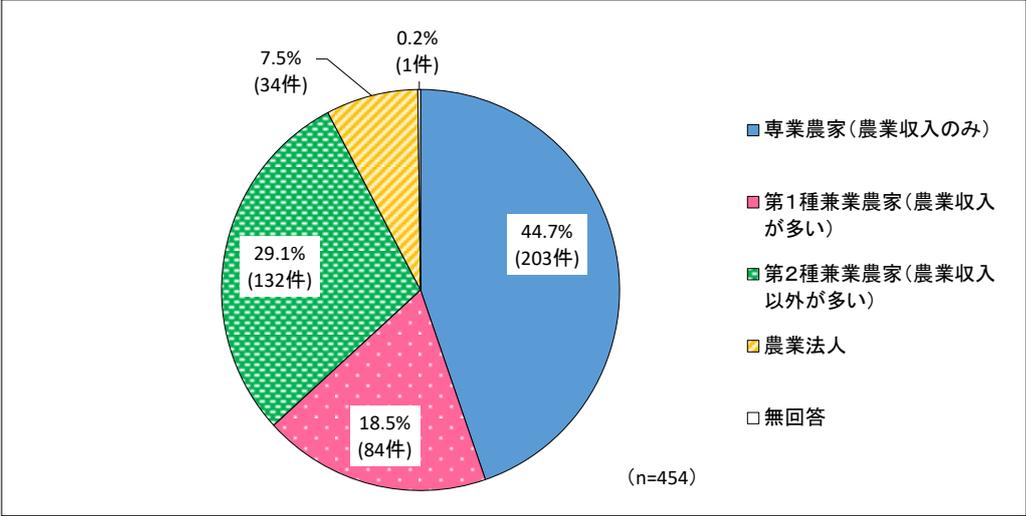
「親子2世代」が 41.2%と 4 割以上を占め最も多く、「夫婦のみ」(23.6%)、「親・子・孫3世代」(21.4%) はともに 2 割台となっている。



農業生産について

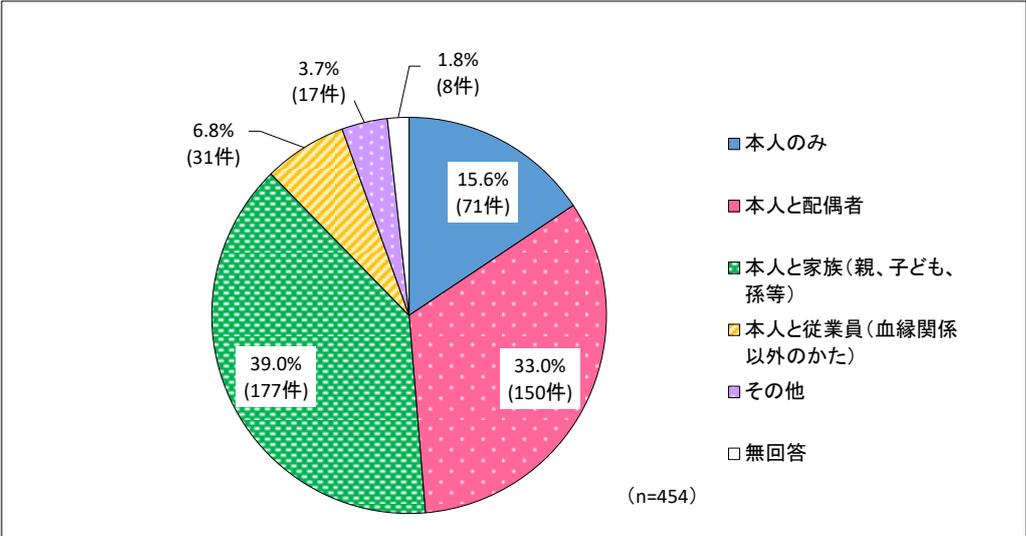
問2 あなたの農業形態を次の中から1つ選んで番号を記入してください。
 なお、1～3のいずれかに該当する方で、かつ農業法人の代表である場合は、
 4を選択してください。

「専業農家」が44.7%と4割以上を占めており、これに「第2種兼業農家」が29.1%と3割近くで続いている。



問3 あなたの世帯または法人の農業従事者を、次の中から1つ選んで番号を記入してください。

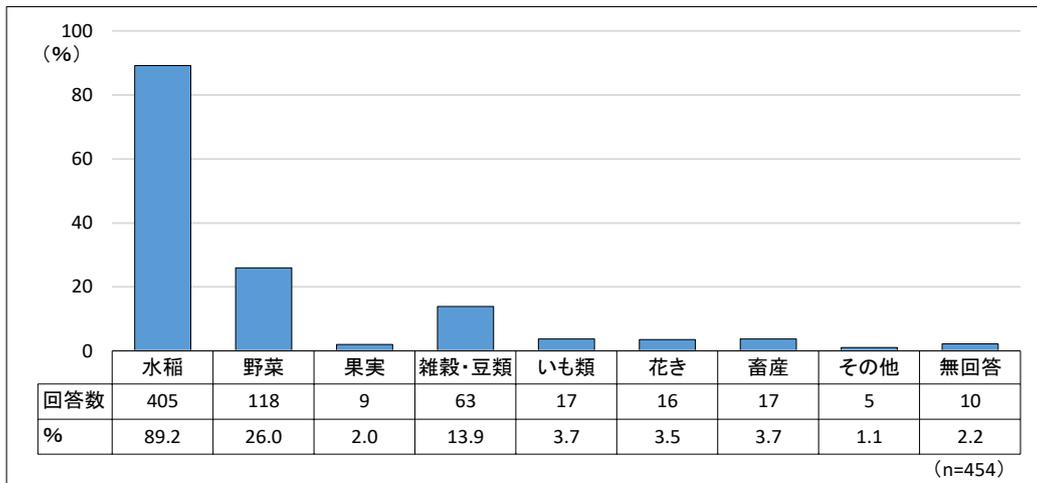
「本人と配偶者」と「本人と家族」を合わせた、「家族経営をしている世帯または法人」の割合が全体の72.0%を占めている。



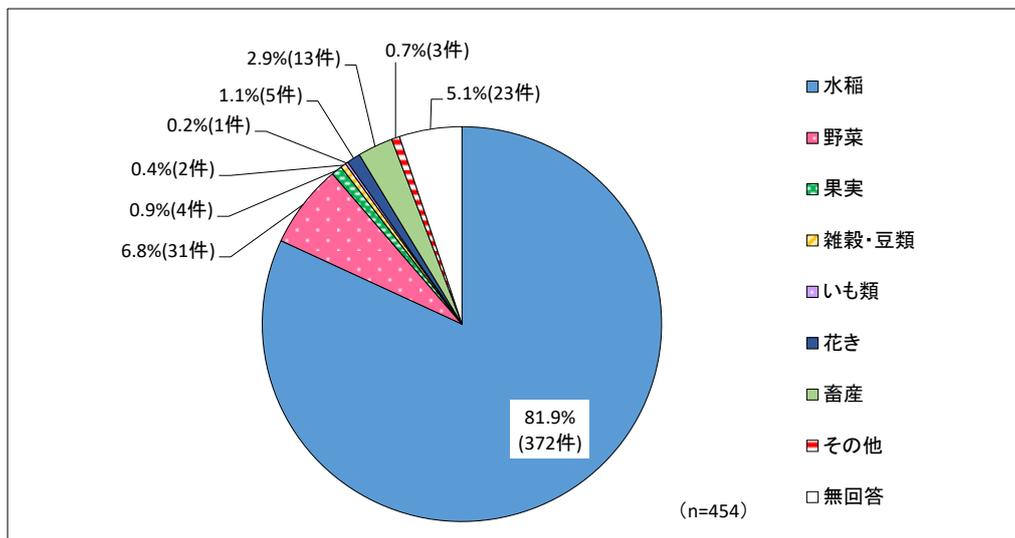
問4 あなたの世帯または法人で生産している作物はどれですか（自家消費分を除く）。次の中から当てはまるもの全ての番号に○をして、最も販売額の多い作物の番号を記入してください。

「水稲」が89.2%と突出して高い割合を示しており、ほとんどの世帯または法人が稲作に取り組んでいることがうかがえる。以下は、「野菜」が26.0%、「雑穀・豆類」が13.9%で続き、「いも類」や「畜産」など他の作物は1割未満の低い割合となっている。

また、最も販売額の多い作物では、「水稲」が8割以上を占め、その他の作物はすべて1割未満の低い割合となっている。



【最も販売額の多い作物】

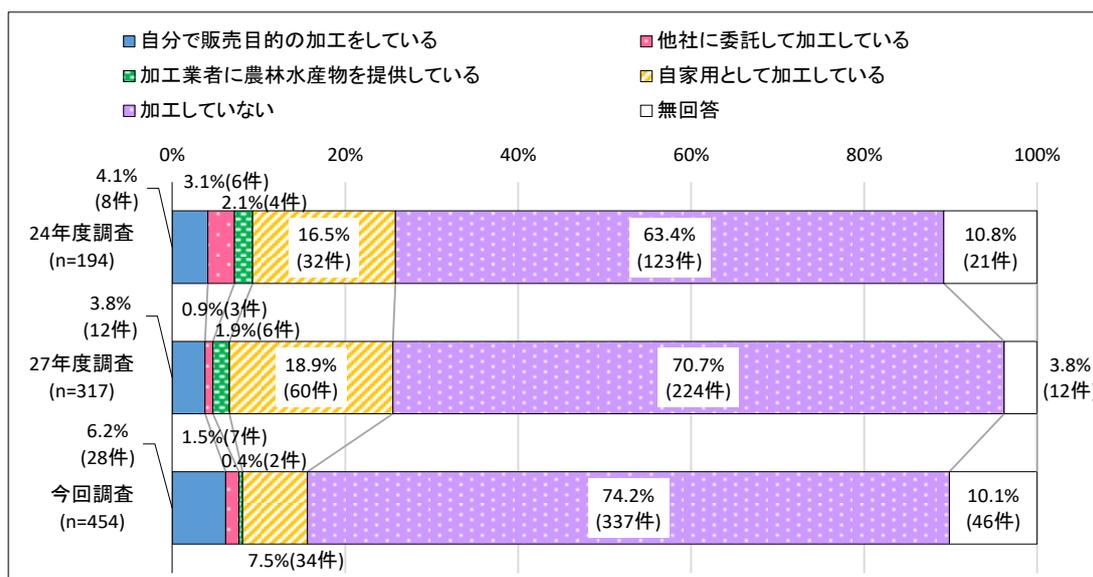


・その他：たらの芽、きのこ、しいたけ、葉タバコ

農林水産物の加工について

問5 生産している農林水産物を活用して、現在、加工に取り組んでいますか。次の中から最も当てはまるものを1つ選んで番号を記入してください。

「加工していない」が74.2%と、前回調査（27年度調査。以下同じ）の70.7%から3.5ポイント上昇し、引き続き最も高い割合となった。一方、「自分で販売目的の加工をしている」と「他社に委託して加工している」を合わせた「加工している」の割合は7.7%と、前回調査（4.7%）からは3.0ポイント上昇したものの1割未満の低い割合となっている。



(問6から問11では、問5で「自分で販売目的の加工をしている」「他社に委託して加工している」と答えた場合に記入)

問6 販売目的に加工している主な農林水産物は何ですか。農林水産物名とその加工品を記入してください。

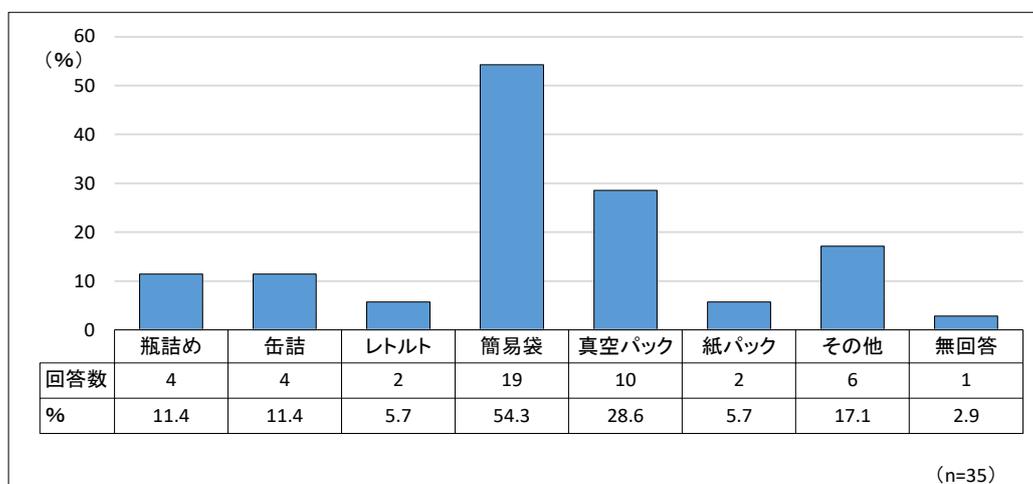
野菜を漬物に加工しているとする回答が14件と最も多く、次いで、りんごをジュースに加工しているとする回答が4件で続いている。米は、回答数が3件と少ないものの、加工食品、調味料、飲料など、他の農林水産物に比べて多様な加工方法が挙げられている。

農林水産物名	回答数	加工品名
野菜(大根、ナス、きゅうり他)	14	漬物
りんご	4	ジュース
米	3	あられ笹巻、レトルトおかゆ、味噌、麴、甘酒
花	2	ドライフラワー、エディブルフラワー
野菜	1	レトルトおかゆ
もち米	1	もち
モロヘイヤ	1	麺
大豆	1	みそ
豚	1	精肉
枝豆	1	ゆで枝豆
さつまいも	1	干しいも
大根	1	切り干し大根
舞茸	1	乾燥舞茸
パセリ	1	乾燥パセリ

(n=27)

問7 その加工品の形態は何ですか。次の中から主なもの3つ以内を選んで番号を記入してください。

「簡易袋」が54.3%で最も多く、半数以上が簡易袋を用いた加工を行っている。以下は「真空パック」が28.6%と3割近くで続き、「瓶詰め」と「缶詰」(各11.4%)は1割台となっている。

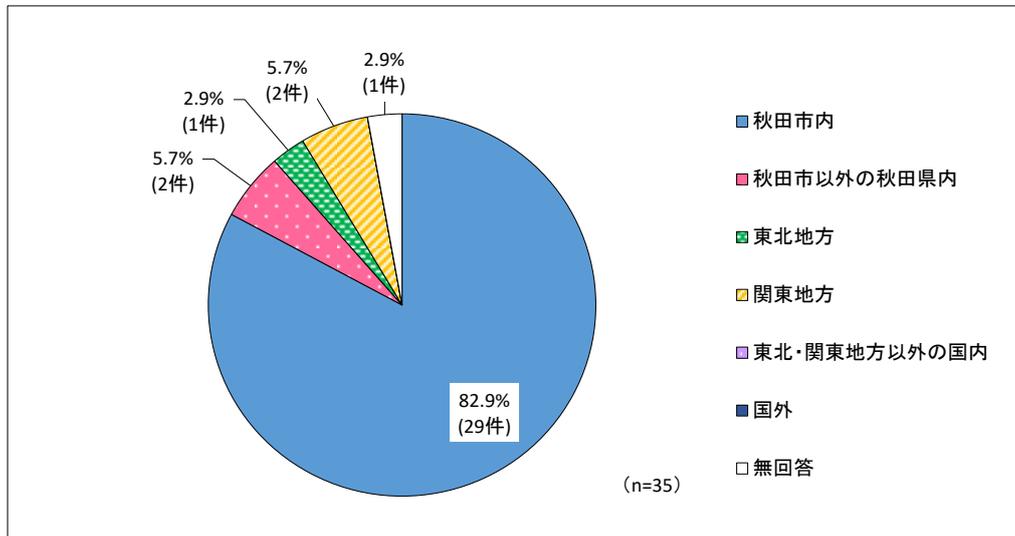


(n=35)

・その他：ビニール袋、プラスチックカップ、プラスチックパック

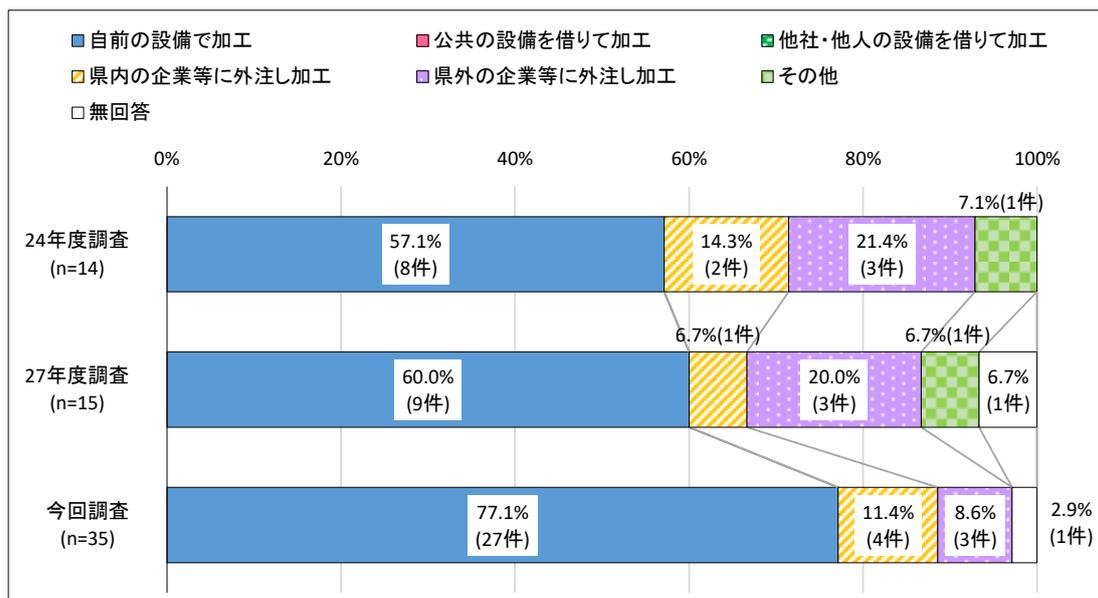
問8 その加工品の主な販売エリアはどちらですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「秋田市内」が82.9%と8割以上を占めており、加工品の販売エリアは秋田市内が中心となっていることがうかがえる。



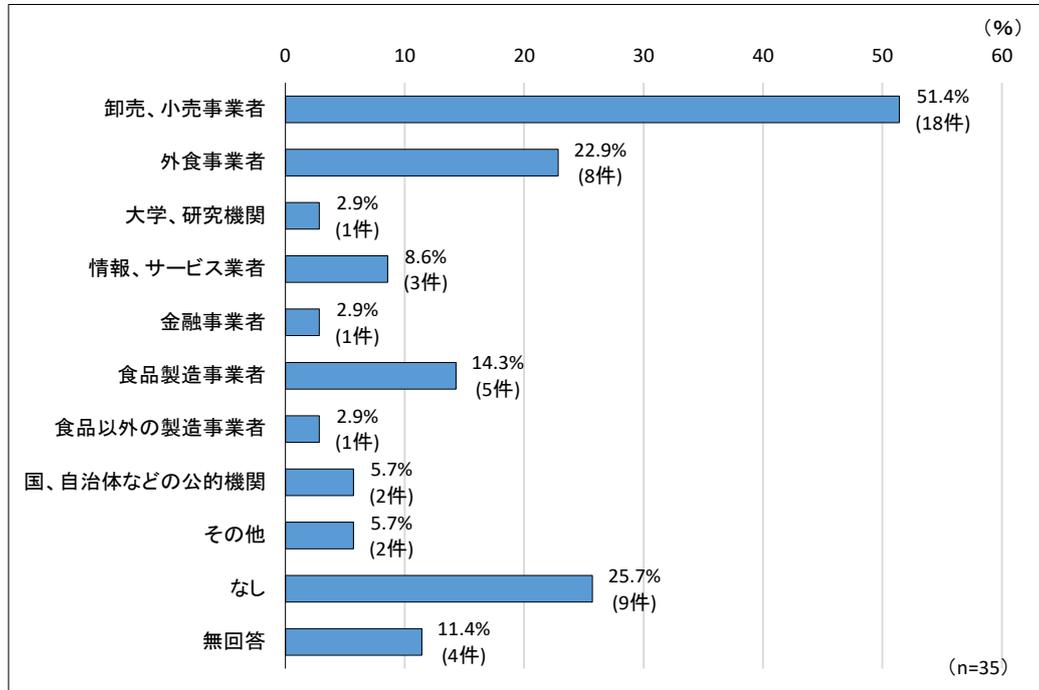
問9 加工手段はどうなっていますか。次の中から主なものを1つ選んで番号を記入してください。

「自前の設備で加工」が77.1%と前回調査（60.0%）から17.1ポイント上昇して全体の8割近くを占め、加工する農業者の多くが自前の設備で加工すると回答している。一方、「県内の企業等に外注し加工」と「県外の企業等に外注し加工」を合わせた「企業等に外注し加工」の割合は20.0%と2割にとどまっている。



問 10 今後、どのような企業と連携して加工に取り組みたいと思いますか。次の中から主なもの**3つ以内**を選んで番号を記入してください。

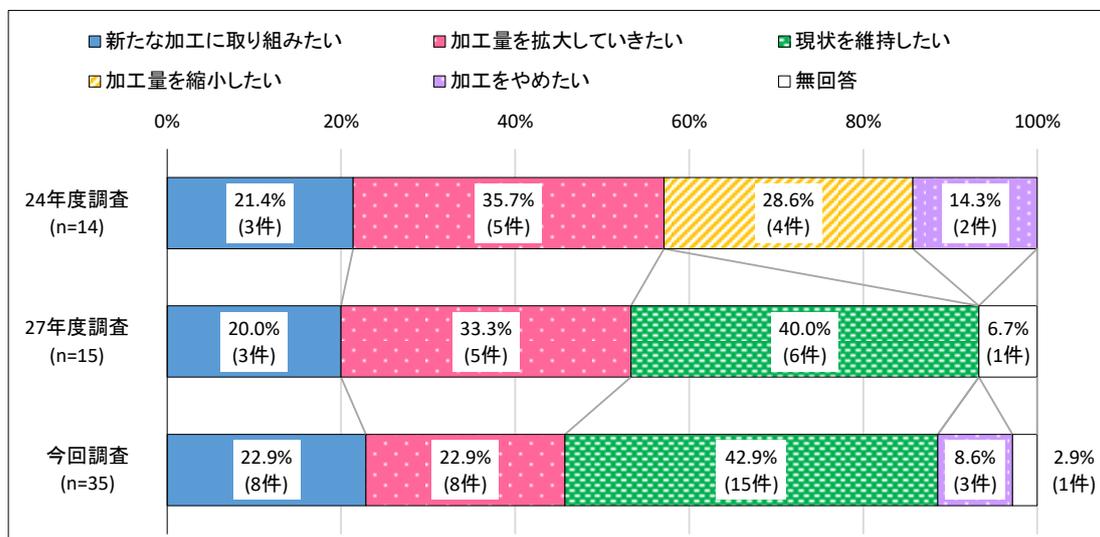
「卸売、小売事業者」が51.4%で最も多く、以下は「外食事業者」が22.9%、「食品製造事業者」が14.3%で続いている。



問 11 今後、加工にどのように取り組みたいとお考えですか。次の中から主なものを**1つ**を選んで番号を記入してください。

「現状を維持したい」が42.9%と最も多く、これに「新たな加工に取り組みたい」と「加工量を拡大していきたい」(各22.9%)が続き、これらを合わせた加工への取組に前向きな意見が88.7%と9割近くを占めた。

一方、「加工量を縮小したい」は前回調査同様皆無で、「加工をやめたい」の割合は8.6%となった。

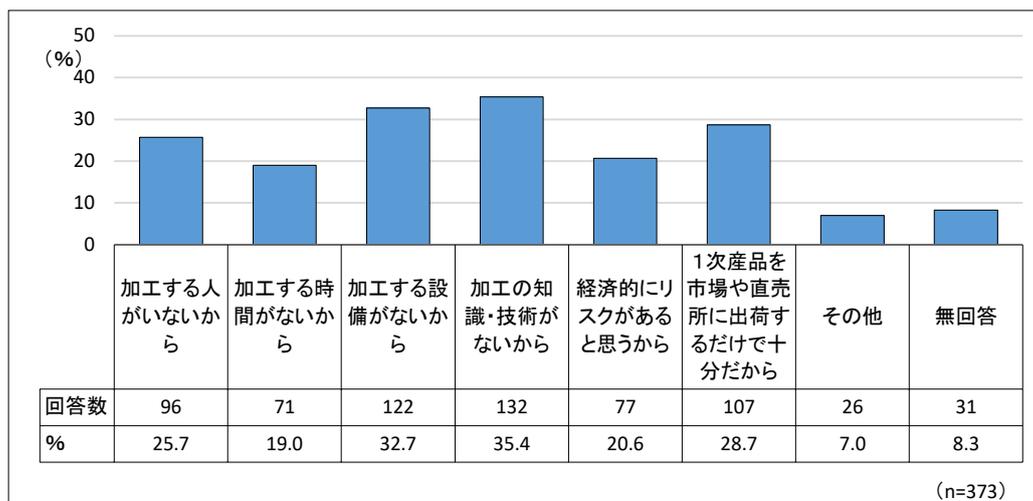


加工に取り組んでいない理由等について

(問 12 と問 13 は、問 5 で「加工業者に農林水産物を提供している」「自家用として加工している」「加工していない」と答えた場合に記入)

問 12 加工に取り組んでいない理由は何ですか。次の中から主なもの 2 つ以内を選んで番号を記入してください。

「加工の知識・技術がないから」が 35.4% で最も多く、これに「加工する設備がないから」が 32.7% で続き、以下は「1 次産品を市場や直売所に出荷するだけで十分だから」(28.7%)、「加工する人がいないから」(25.7%) などの順となっている。

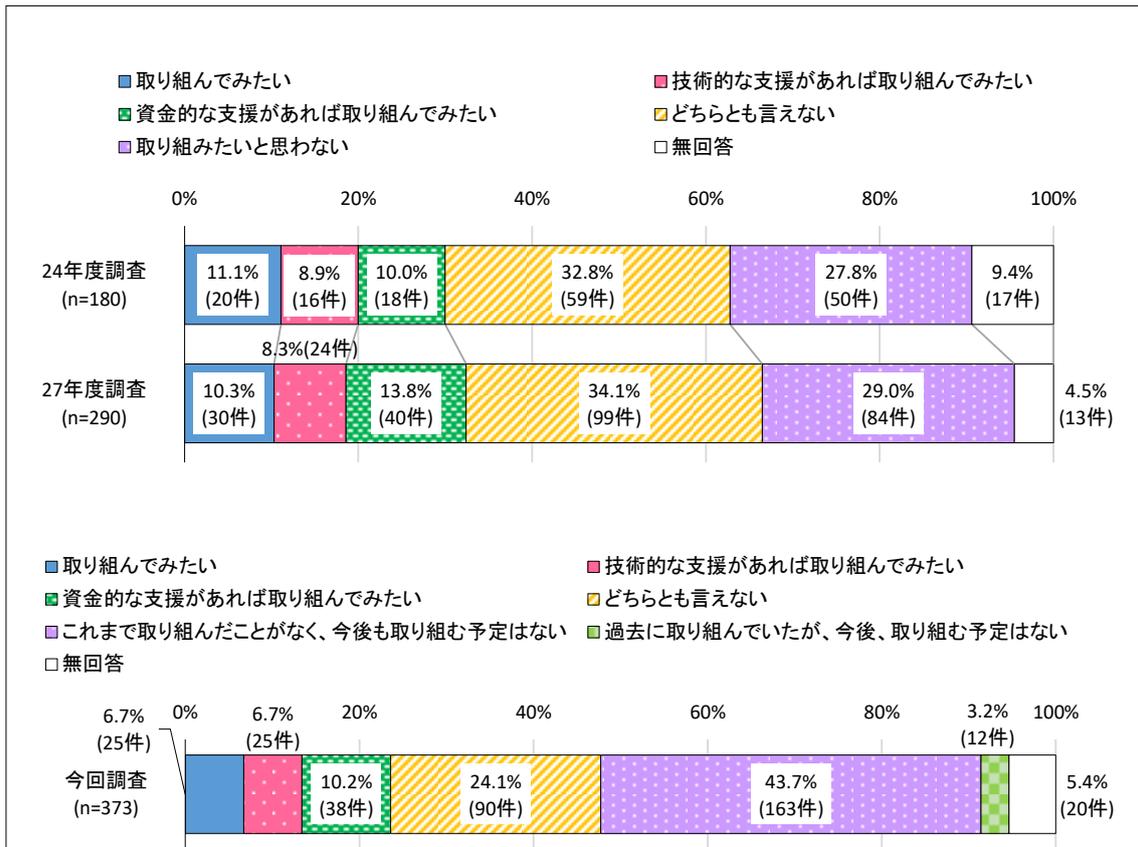


その他意見(主な意見)	
加工できるような農林水産物がないため。	(5件)
高齢のため。年齢的に難しい。	(3件)
生産量が少ないため。	(3件)
初年度のため(余裕がない)。	(2件)
許可を取るのが難しい。	(1件)
販売ルートの開拓が非常に難しい。	(1件)
作業場や事務所の建設が必要。	(1件)
家族で食べれば十分だから。	(1件)
面倒だから。	(1件)

() 内は、同様の意見の件数。

問 13 今後、自分で生産した農林水産物の加工に取り組んでみたいと思いますか。
次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「これまでに取り組んだことがなく、今後も取り組む予定はない」が43.7%と4割以上を占め、最も多くなっている。一方、「取り組んでみたい」(6.7%)、「技術的な支援があれば取り組んでみたい」(6.7%)、「資金的な支援があれば取り組んでみたい」(10.2%)の3項目を合わせた、加工への取組に前向きな意見は23.6%と2割台にとどまった。また、この割合は前回調査(32.4%)から8.8ポイント低下した。

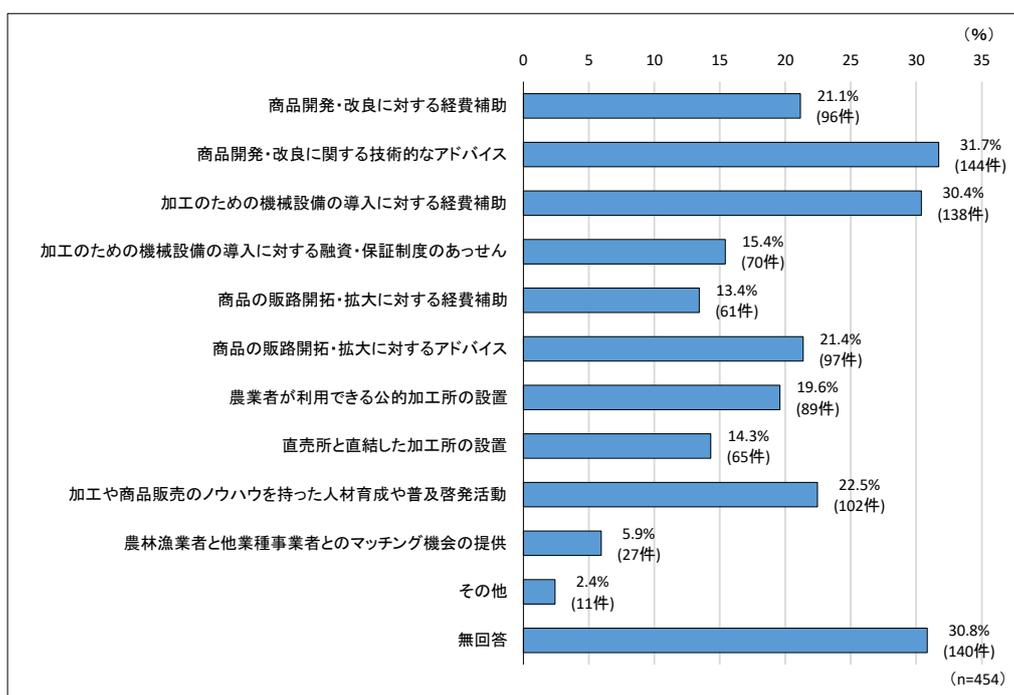


「過去に取り組んでいたが、今後、取り組む予定はない」を選んだ人の理由
 年齢的な不安と、加工することで商品の安全性を保てなくなる可能性が高まるため。
 31年度より法人化になるので。
 販売する場所がないから。

加工への参入支援について

問 14 あなたは（記入された方のお考えで結構です）、農業者が自ら生産した1次製品の加工や商品開発・改良に取り組むためには、どのような行政支援が有効だと思いますか。次の中から**3つ以内**を選んで番号を記入してください。

「商品開発・改良に関する技術的なアドバイス」が31.7%、「加工のための機械設備の導入に対する経費補助」が30.4%と、この2項目が3割を超え、これに「加工や商品販売のノウハウを持った人材育成や普及啓発活動」（22.5%）、「商品の販路開拓・拡大に対するアドバイス」（21.4%）、「商品開発・改良に対する経費補助」（21.1%）が2割台で続いた。



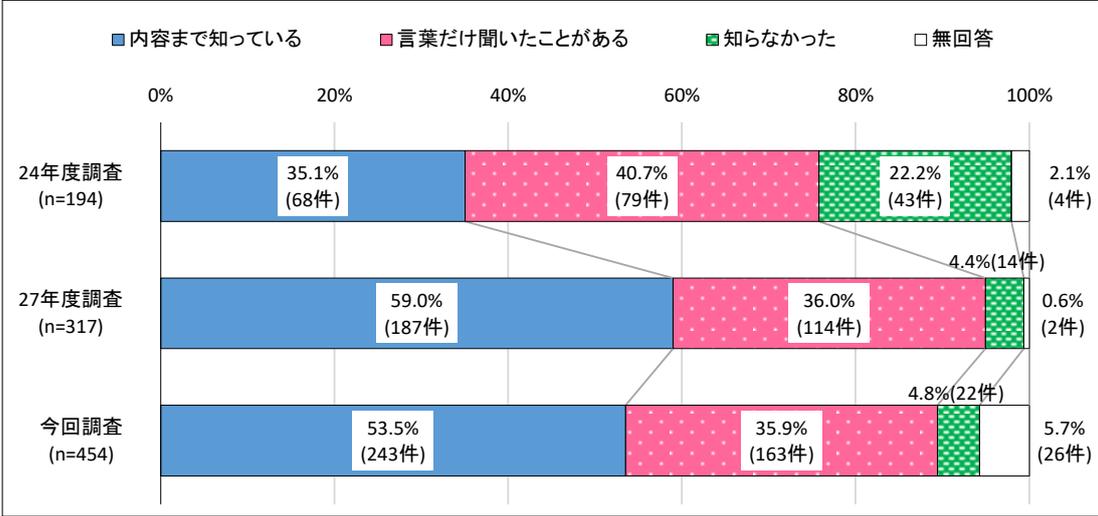
その他意見（一部、抜粋）

収穫した野菜の一時加工、又、ストックして年内通して加工できるよう、支援してほしい。
 市場情報の提供、顧客ニーズ調査など（買い手が何を望んでいるか）。
 価格競争できる企業の誘致。（個人では、難しい。）
 地域の担い手育成。

6次産業化について

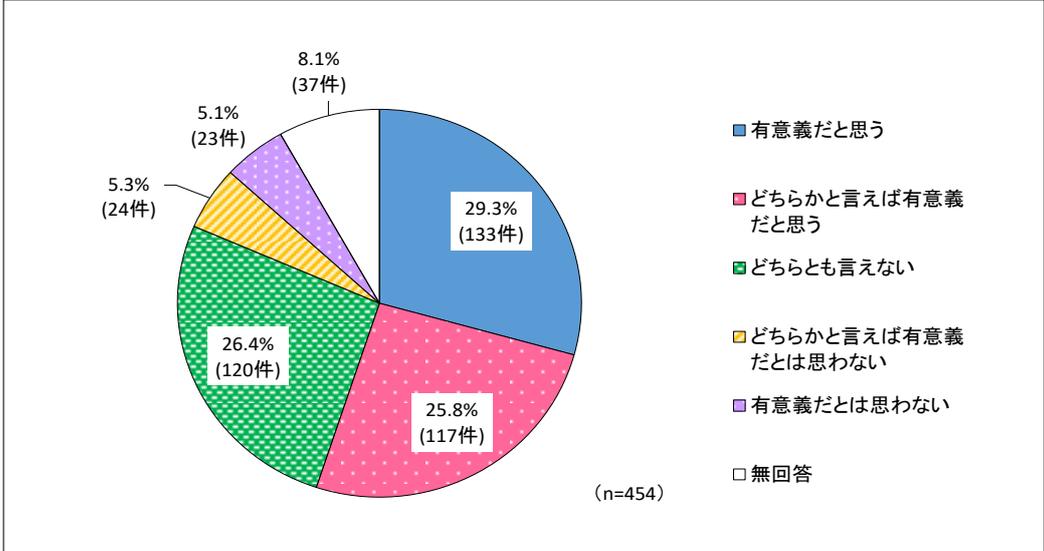
問 15 6次産業化という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「内容まで知っている」が53.5%、「言葉だけ聞いたことがある」が35.9%となり、9割弱の認知度となった。前回調査（95.0%）に続き高い割合となった。



問 16 6次産業化とは、生産（1次産業）と加工（2次産業）、販売（3次産業）を一体化して、地域に新しい付加価値を生み出そうとする取組です。秋田市の6次産業化を進めようという取組は、あなたにとって有意義なものだと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

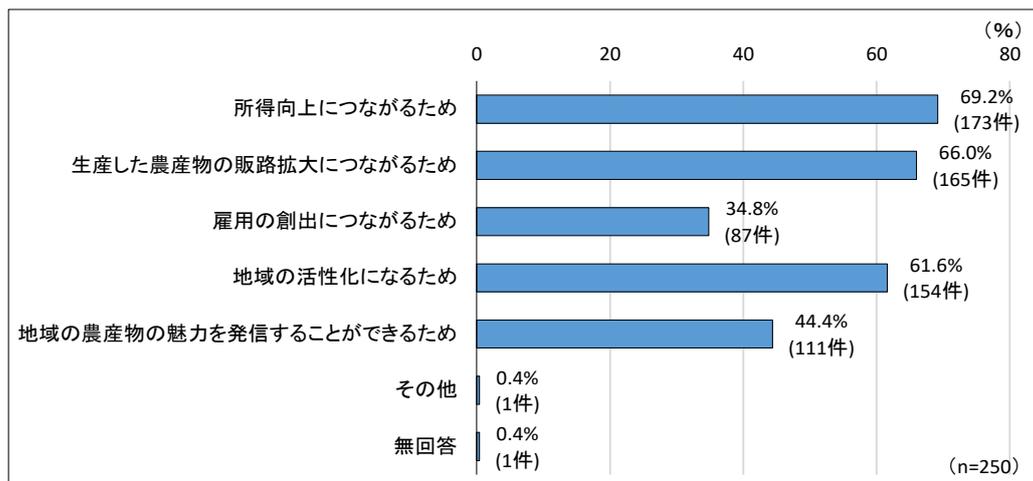
「有意義だと思う」が29.3%で最も多く、これに「どちらかと言えば有意義だと思う」（25.8%）を合わせた、「有意義だ」とする回答が55.1%と過半数を占めた。



(問 17 は、問 16 で「有意義だと思う」または「どちらかと言えば有意義だと思う」と答えた場合に記入)

問 17 秋田市の 6 次産業化を進めようとする取組が、あなたにとって有意義だと思う理由について、次の中から当てはまるもの全ての番号を記入してください。

「所得向上につながるため」が 69.2% で最も多く、これに「生産した農産物の販路拡大につながるため」(66.0%) と「地域の活性化になるため」(61.6%) を加えた上位 3 項目が 6 割台の高い割合となった。

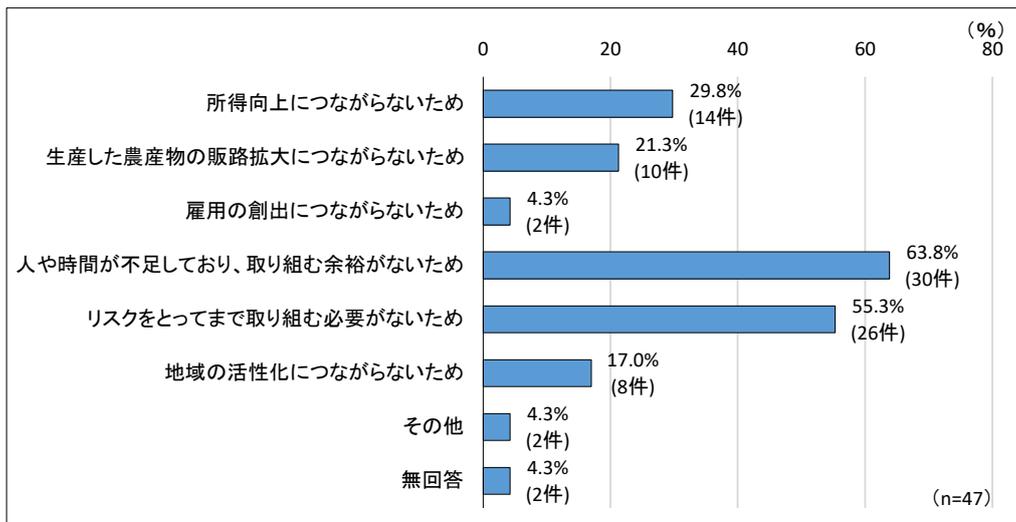


その他意見
生きがいになる。

(問 18 は、問 16 で「どちらかと言えば有意義だと思わない」または「有意義だと思わない」と答えた場合に記入)

問 18 秋田市の 6 次産業化を進めようとする取組が、あなたにとって有意義ではないと思う理由について、次の中から**当てはまるもの全ての**番号を記入してください。

「人や時間が不足しており、取り組む余裕がないため」が 63.8% で最も多く、これに「リスクをとってまで取り組む必要がないため」が 55.3% で続き、この 2 項目が他の項目に比べて高い割合となった。

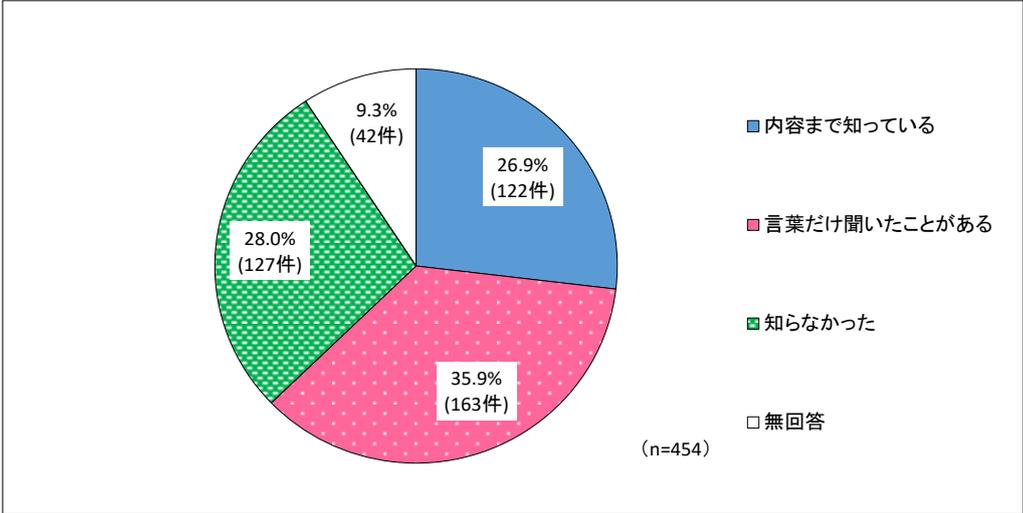


その他意見
面倒だ。
一次で精一杯。

グリーン・ツーリズムについて

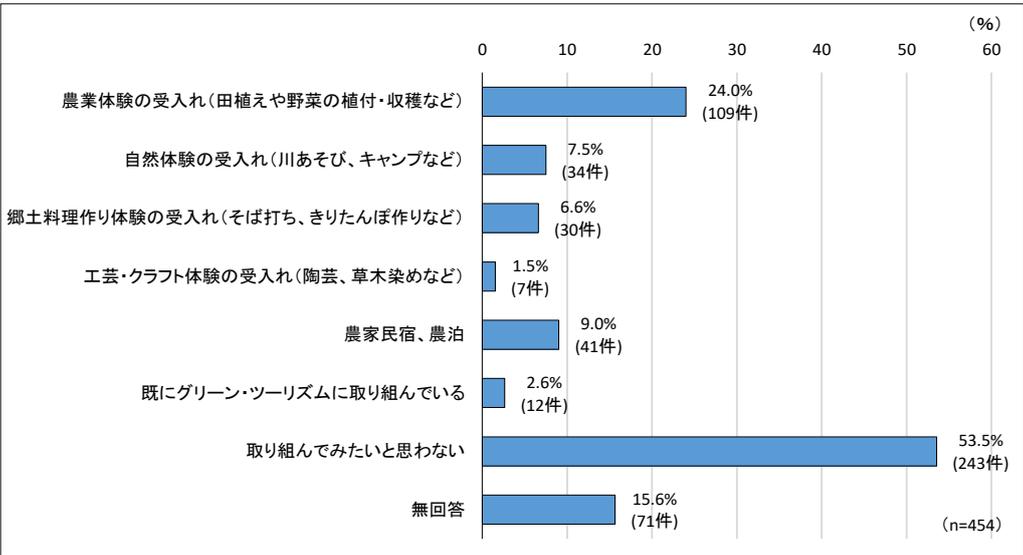
問 19 グリーン・ツーリズムという言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「言葉だけ聞いたことがある」が 35.9%で最も多く、「内容まで知っている」は 26.9%となり、6割以上の認知度となった。一方、「知らなかった」は 28.0%であった。



問 20 グリーン・ツーリズムとは、農村地域の自然や文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のことです。あなたは、主催者として農業体験や自然体験などのグリーン・ツーリズムに取り組んでみたいですか。次の中から**当てはまるもの全ての**番号を記入してください。

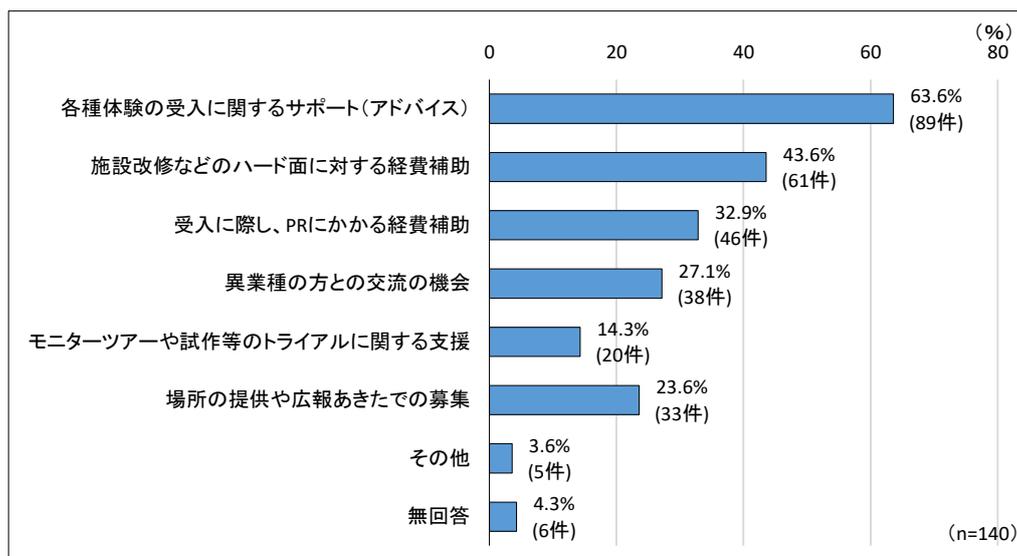
取組に意欲的な意見をみると、「農業体験の受入れ（田植えや野菜の植付・収穫など）」が 24.0%で最も高い割合となり、その他はいずれも1割未満の低い割合となった。一方、「取り組んでみたいと思わない」は 53.5%となった。



(問 21 は、問 20 で「取り組んでみたいと思わない」以外を選んで答えた場合に記入)

問 21 あなたがグリーン・ツーリズムに取り組むためには、どのような行政支援が必要ですか。次の中から**当てはまるもの全ての**番号を記入してください。

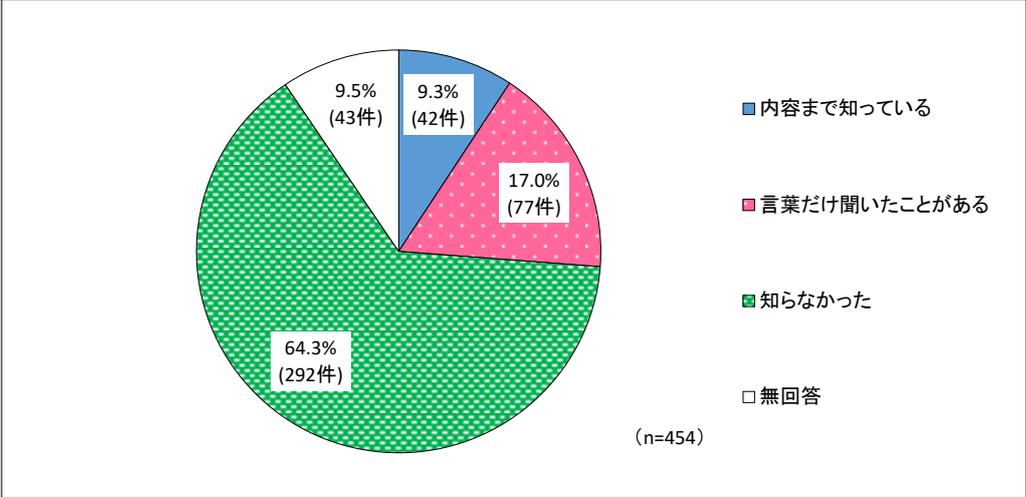
「各種体験の受け入れに関するサポート（アドバイス）」が 63.6%で6割を超え最も多く、これに「施設改修などのハード面に対する経費補助」が 43.6%で続き、以下は「受入に際し、PRにかかる経費補助」(32.9%)、「異業種の方との交流の機会」(27.1%)などの順となっている。



秋田市「農家のパーティ」について

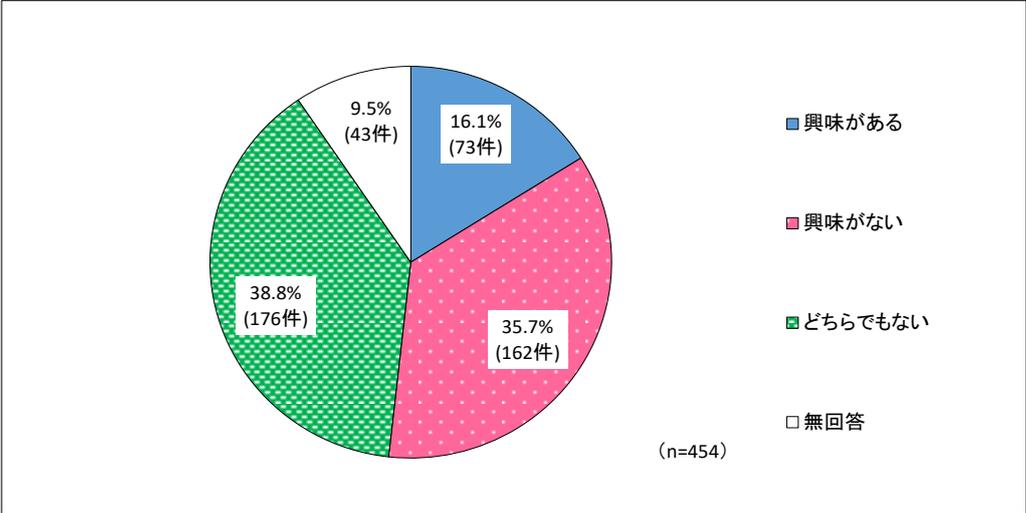
問 22 秋田市では、本市の農産品全体の価値向上と積極的な情報発信を図るため、平成 29 年 3 月に「秋田市農業ブランド確立総合戦略」を策定し、そのブランドネームを「農家のパーティ」としました。あなたは、「農家のパーティ」という言葉を知っていますか。次の中から 1 つ選んで番号を記入してください。

「内容まで知っている」が 9.3%、「言葉だけ聞いたことがある」が 17.0%と、これらを合わせた割合が 3 割弱となった。一方、「知らなかった」が 64.3%と 6 割以上を占めており、認知度の低い状況がうかがえる。



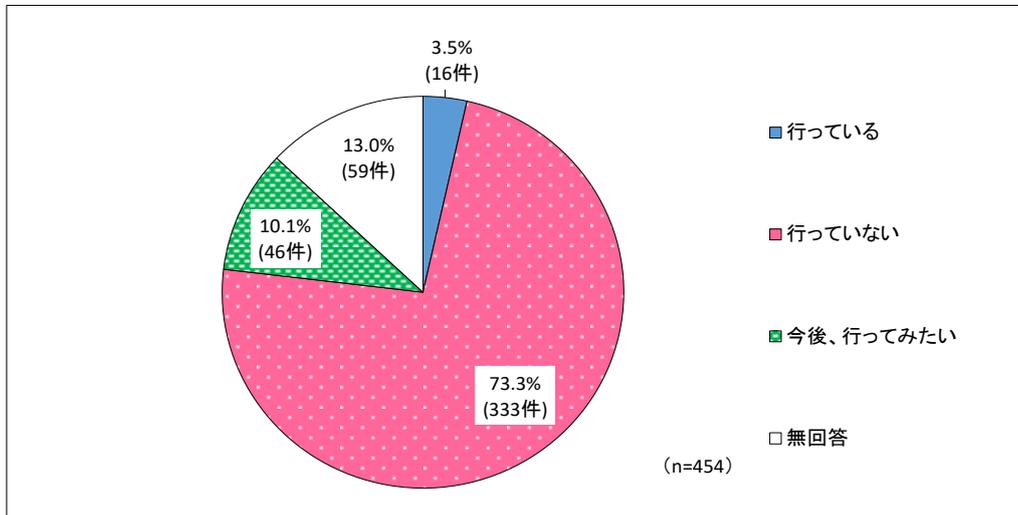
問 23 秋田市では、農家と事業者などが連携して行う地元産品を活用した特色ある事業活動を「農家のパーティ」プロジェクトとして、その取組を募集しています。あなたは、この取組に興味はありますか。次の中から、1 つ選んで番号を記入してください。

「どちらでもない」が 38.8%で最も多く、これに「興味がない」が 35.7%で続き、「興味がある」は 16.1%と 1 割台となった。



問 24 あなたは、問 23 のような取組を行っていますか。次の中から、1つ選んで番号を記入してください。

「行っていない」(73.3%) が全体の7割強を占めた一方、「行っている」は3.5%と低い割合となった。「今後、行ってみたい」とする前向きな意見は10.1%と1割程度みられた。

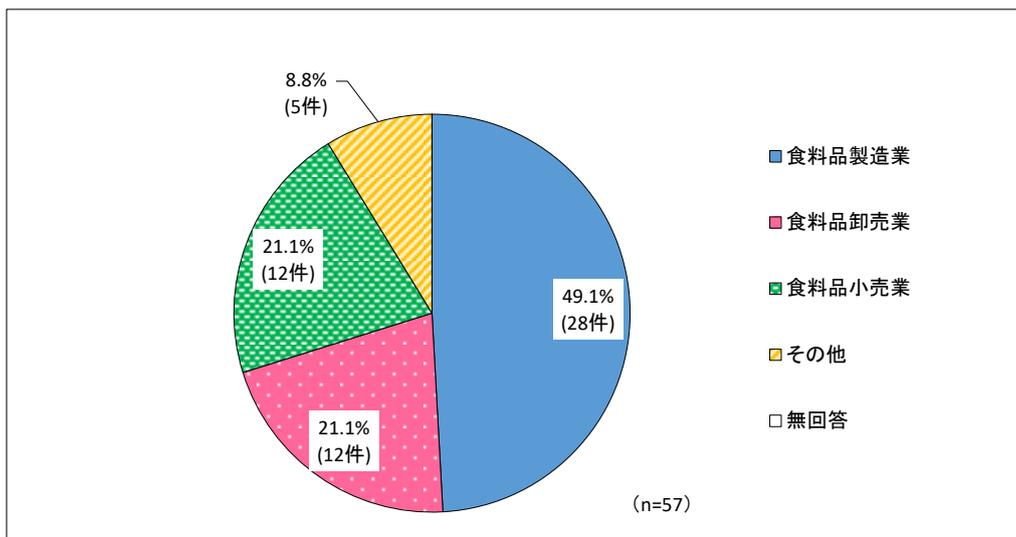


2 食料品関連事業者

事業内容について

問1 貴社の主な事業は何ですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

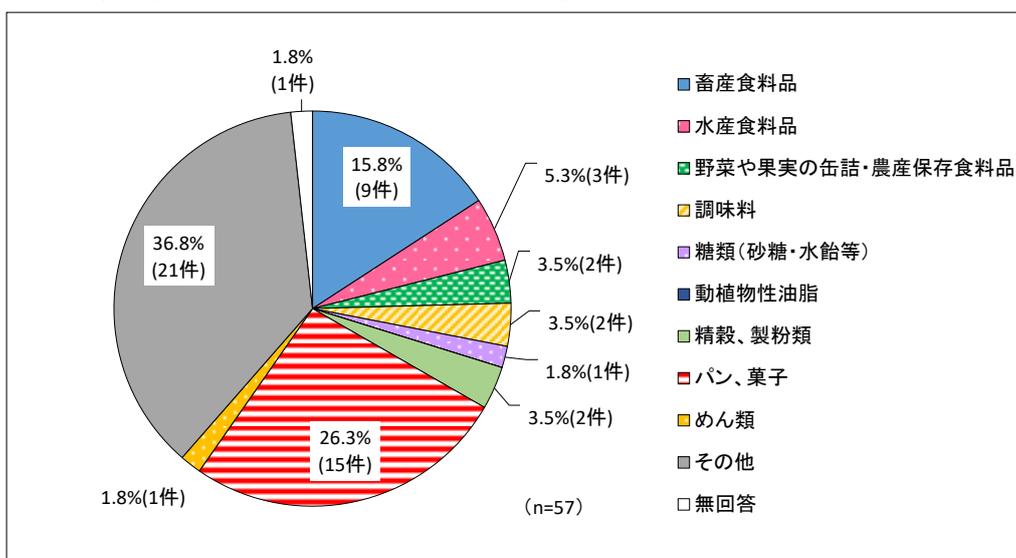
「食料品製造業」が49.1%と5割近くを占め最も多く、「食料品卸売業」と「食料品小売業」（各21.1%）は2割台となっている。



・その他：飲食店、製造・販売・輸出業、輸出業

問2 貴社が主に製造・販売している製品は何ですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

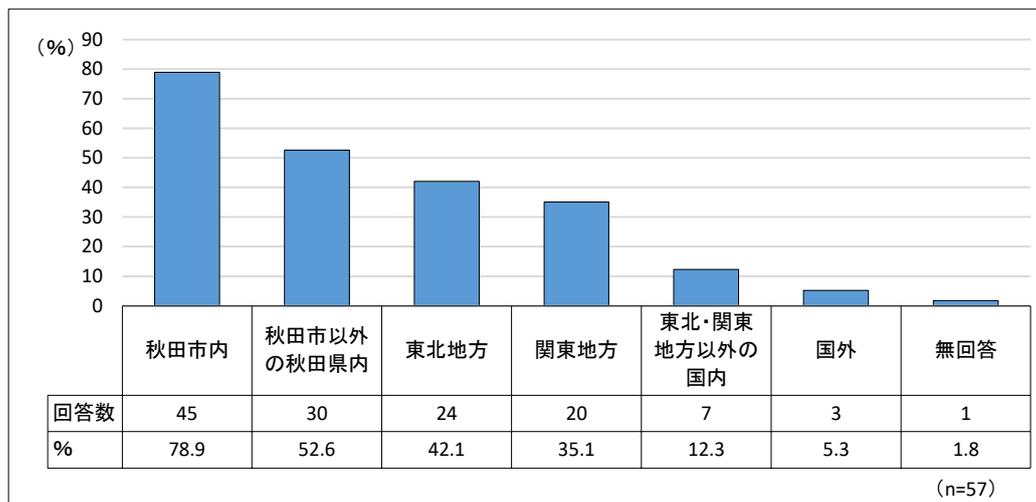
「パン、菓子」（26.3%）や「畜産食料品」（15.8%）が比較的多くなっている。



・その他：酒類、惣菜等調理品、米、野菜、豆腐、こんにゃく、麴、アイス、健康食品、発酵食品、業務用食品など

問3 貴社製品の主な出荷先はどちらですか。次の中から3つ以内を選んで番号を記入してください。

「秋田市内」が78.9%で最も多く、これに「秋田市以外の秋田県内」(52.6%)、「東北地方」(42.1%)が続いている。

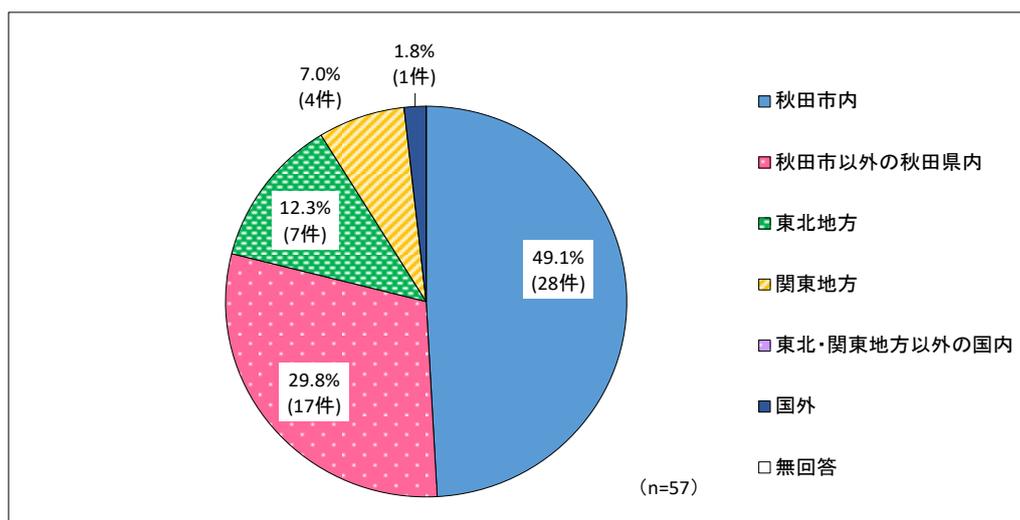


・ 国外：アメリカ、イギリス、フランス、マレーシア

地元農林水産品の活用について

問4 貴社の原材料または商品の主な仕入先はどちらですか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「秋田市内」が49.1%で半数近くを占め、「秋田市以外の秋田県内」は29.8%となり、これらを合わせた「秋田県内」が全体の78.9%を占めている。

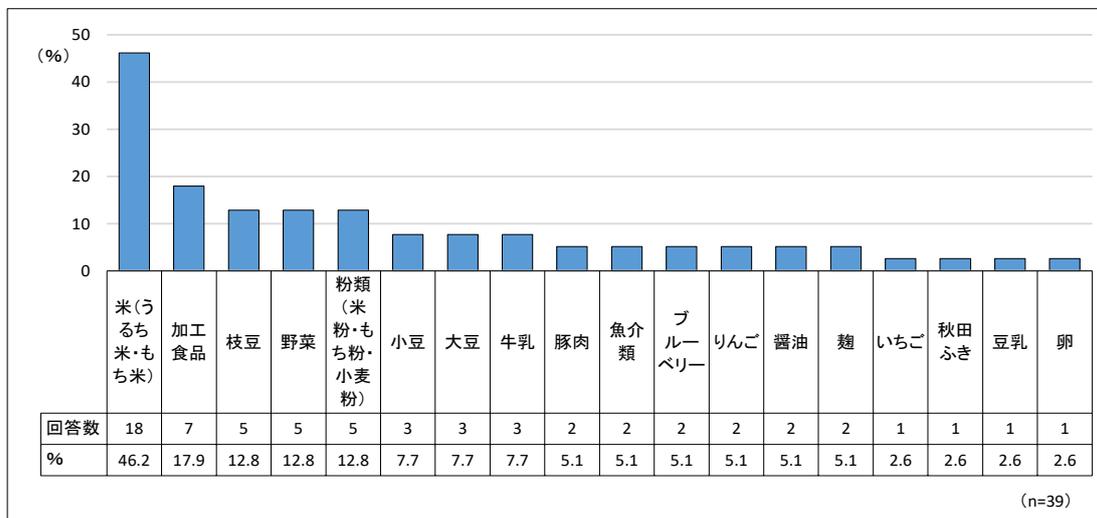
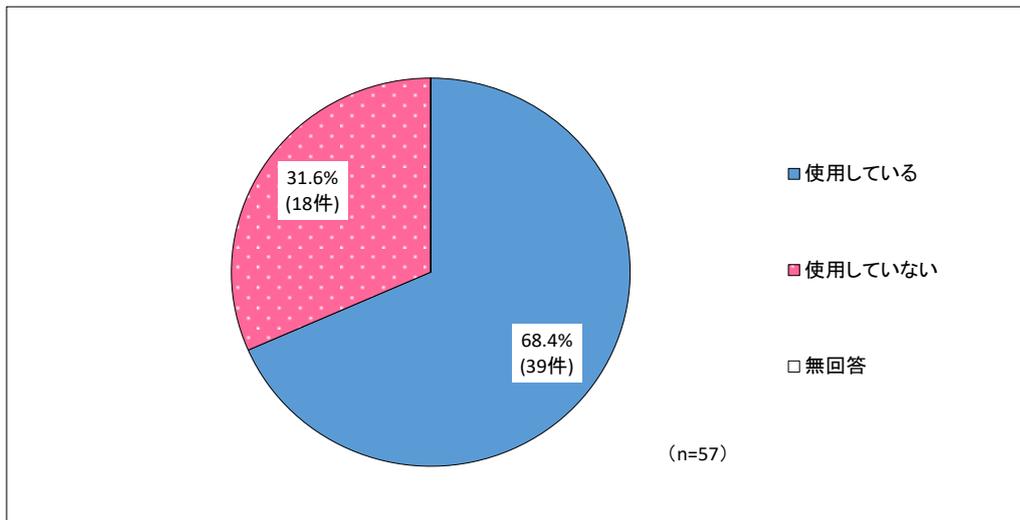


・ 国外：中国、タイ

問5 貴社では、原材料や商品のうち、一部でも秋田市産農林水産品を使用していますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。また、使用している場合はその農林水産品を3つまでご記入ください。

「使用している」が68.4%で7割近くを占めた一方、「使用していない」は31.6%と3割強となった。

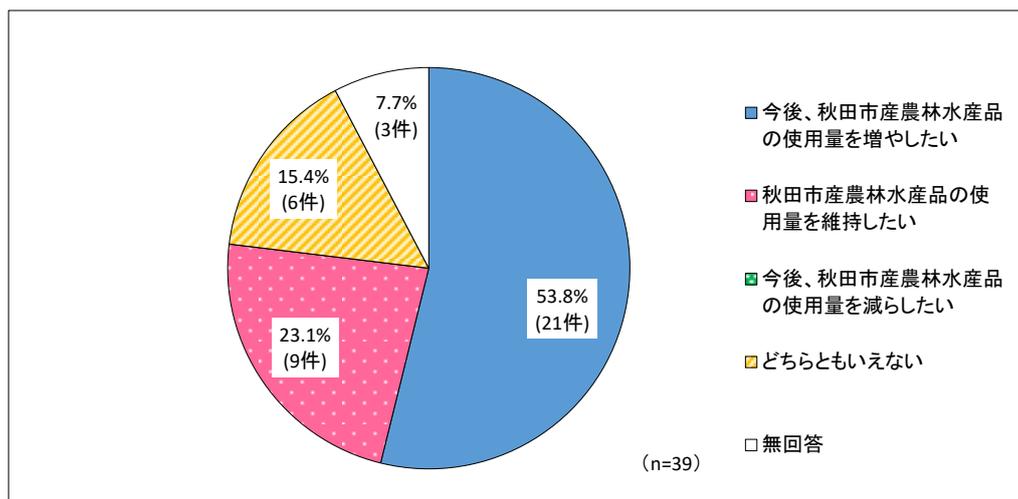
使用している農林水産品の中では、「米（うるち米・もち米）」が46.2%で最も多くなっている。



(問6は、問5で「使用している」と答えた場合に記入)

問6 貴社では、秋田市産農林水産品の使用について、今後、どのようにしたいと考えていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。また、そのように考えている理由をご記入ください。

「今後、秋田市産農林水産品の使用を増やしたい」が53.8%と半数以上を占め、これに「秋田市産農林水産品の使用量を維持したい」(23.1%)を合わせた、地元産品の使用に意欲的な意見は76.9%と全体の8割弱を占めた。既に秋田市農林水産品を使用している食料品関連事業者には、地元産品の活用意欲の高さがうかがえる。



回答	理由
使用量を増やしたい	良い、美味しい食材だから 地産地消は地域経済にも環境にも良いと思うから。 地域密着主義のため。 地産地消の割合を増やしていきたいから。 地元の食材は安心・安全で、お客様も喜んで買ってもらえる。また、地元(近隣)はほとんど農家なので、地元の発展に寄与したい。 市内で契約栽培米の農家との協業が始まったから。 販売先へのアピールになる。
使用量を維持したい	地産地消のため。 需要と供給をみて対応していきたい。
どちらともいえない	使用できる農林水産品が少ない。

(問7と問8は、問5で「使用していない」と答えた場合に記入)

問7 貴社で、秋田市産農林水産品を使用していない理由についてお答えください。

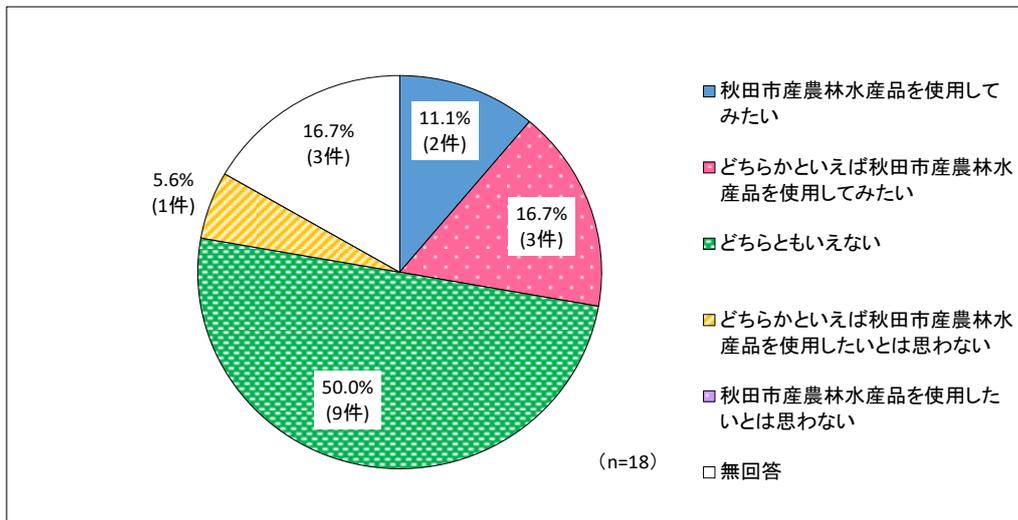
秋田市産農林水産品をしようしていない理由では、量の確保や流通面での意見がみられた。

理由(主な意見)	
使用したいと思っても、秋田市産のものがない。	(3件)
仕入れルートの都合のため。	(3件)
必要量を確保できないことが多い。量がまとまらない。	(2件)
商品に合う素材が見つけられていない。	(1件)
使用したい商品について、秋田市産のものを扱っているメーカーがない。	(1件)

()内は、同様の意見の件数。

問8 貴社では、秋田市産農林水産品の使用について、今後、どのようにしたいと考えていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。また、そのように考える理由と該当する農林水産品名（複数可）についてもお答えください。

「どちらともいえない」が50.0%と半数を占め、地元産品の使用に意欲的な意見は「秋田市産農林水産品を使用してみたい」が11.1%、「どちらかといえば秋田市産農林水産品を使用してみたい」が16.7%と、全体の3割弱を占めた。

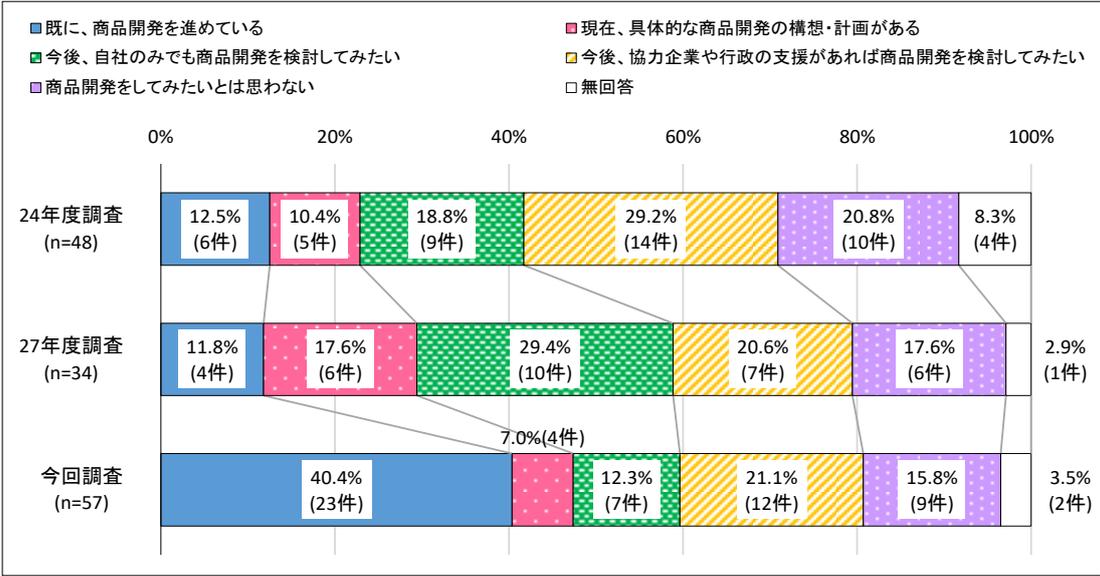


回答	理由	該当する農林水産品名
使用してみたい	近いため。	今は無い
どちらかといえば使用してみたい	お土産などに需要がありそう。	枝豆
どちらともいえない	今後の動向にもよると思う。	-
どちらかといえば使用してみたいとは思わない	当社が必要とする量の調達に不安。	-

商品開発・改良等について

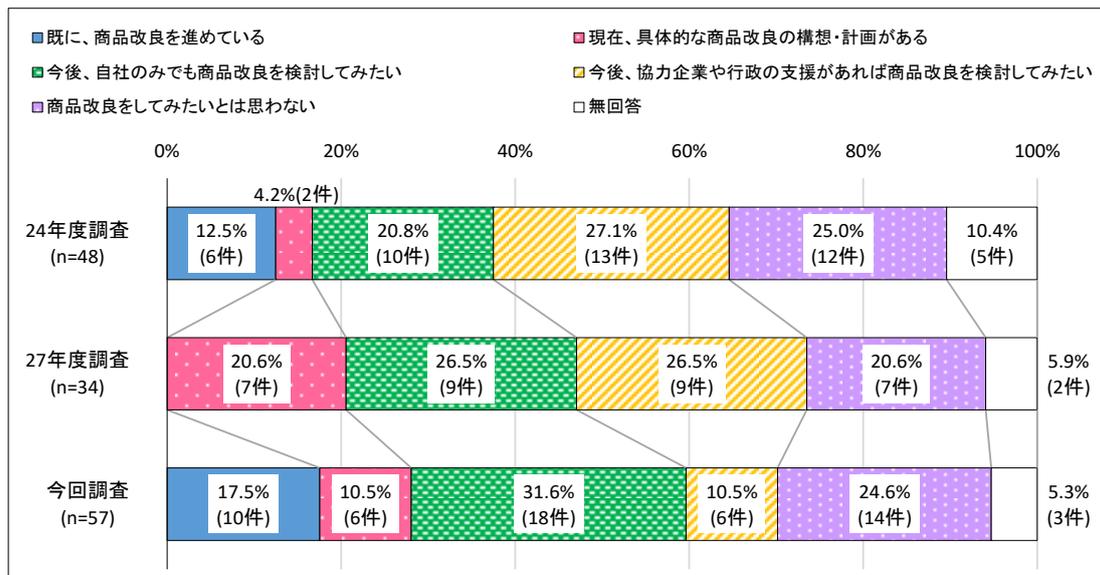
問9 貴社では、秋田市内や秋田県内の農林水産品を活用した商品開発をしてみたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「既に、商品開発を進めている」が40.4%と前回調査(11.8%)を大きく上回り、最も多くなった。また、これに「現在、具体的な商品開発の構想・計画がある」、「今後、自社のみでも商品開発を検討してみたい」、「今後、協力企業や行政の支援があれば商品開発を検討してみたい」の3項目を合わせた、商品開発への積極的な意見は80.8%と8割を超え、多くの食料品関連事業者が商品開発に積極的である様子がうかがえた。



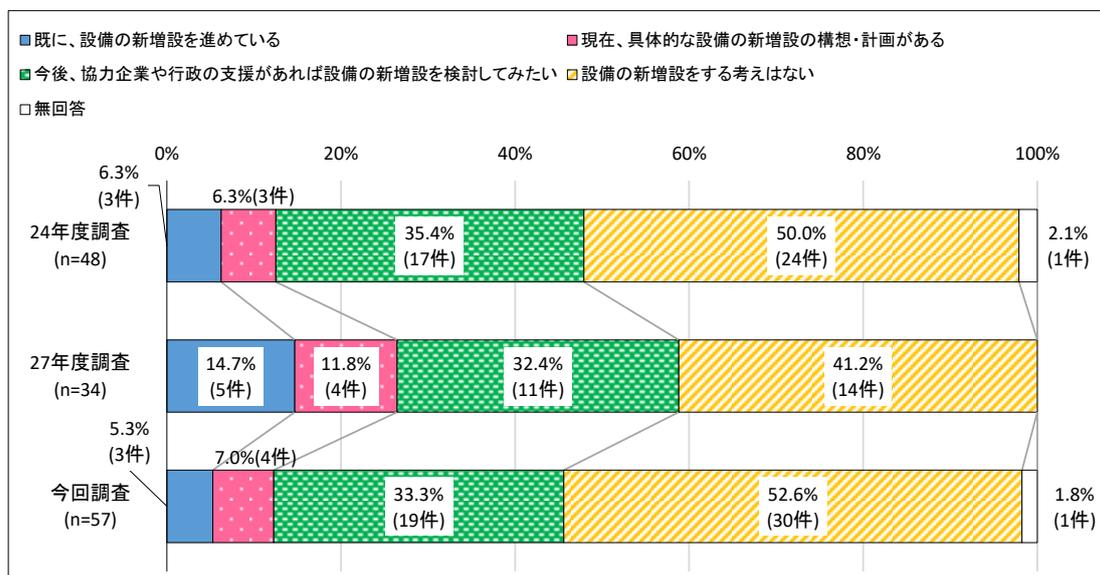
問 10 貴社では、秋田市内や秋田県内の農林水産品を活用して、既存商品の改良をしてみたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「既に、商品改良を進めている」、「現在、具体的な商品改良の構想・計画がある」、「今後、自社のみでも商品改良を検討してみたい」、「今後、協力企業や行政の支援があれば商品改良を検討してみたい」の4項目を合わせた、商品改良への積極的な意見は70.1%となった。この割合は前回調査(73.6%)からは低下したものの、引き続き既存商品の改良については積極的な意見が多く見られた。



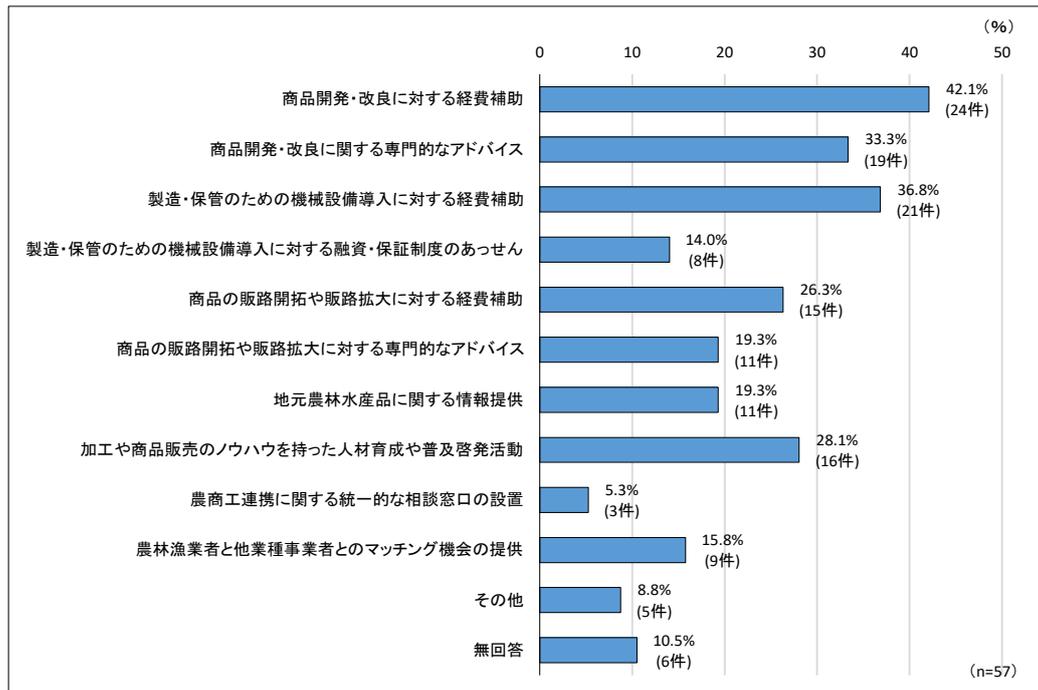
問 11 貴社では、製造設備や保管設備などの新增設の構想・計画はありますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「設備の新增設をする考えはない」が52.6%と半数以上を占め、前回調査と同様に最も多くなっている。一方、「既に、設備の新增設を進めている」(5.3%)、「現在、具体的な設備の新增設の構想・計画がある」(7.0%)はいずれも少ない。



問 12 あなたは（記入された方のお考えで結構です）、秋田市内や秋田県内の農林水産品を活用した商品開発・改良や商品製造を進めていくためには、どのような行政支援が有効だと思いますか。次の中から**3つ以内**を選んで番号を記入してください。

「商品開発・改良に対する経費補助」が42.1%で最も多く、これに「製造・保管のための機械設備導入に対する経費補助」（36.8%）、「商品開発・改良に関する専門的なアドバイス」（33.3%）、「加工や商品販売のノウハウを持った人材育成や普及啓発活動」（28.1%）などが続いている。

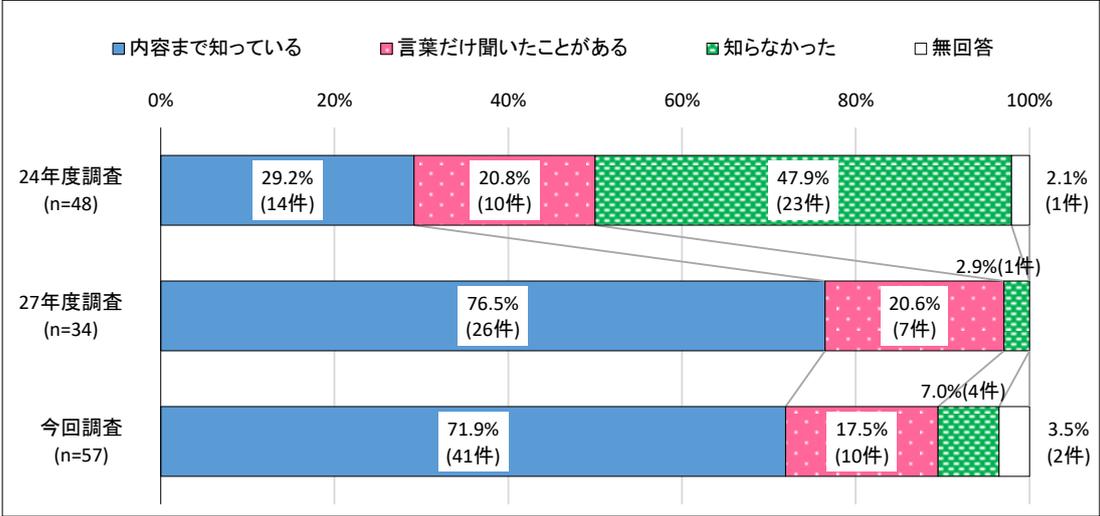


その他意見
農水産品製造の多角化、大型化を進め、低単価の原料提供できる企業を育成す 海外への市場開拓支援。
農林水産物加工所の支援等（2次加工できる会社が増えるとよい）。
安心・安全な工場（2次加工・最終加工）。

6次産業化について

問 13 6次産業化という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

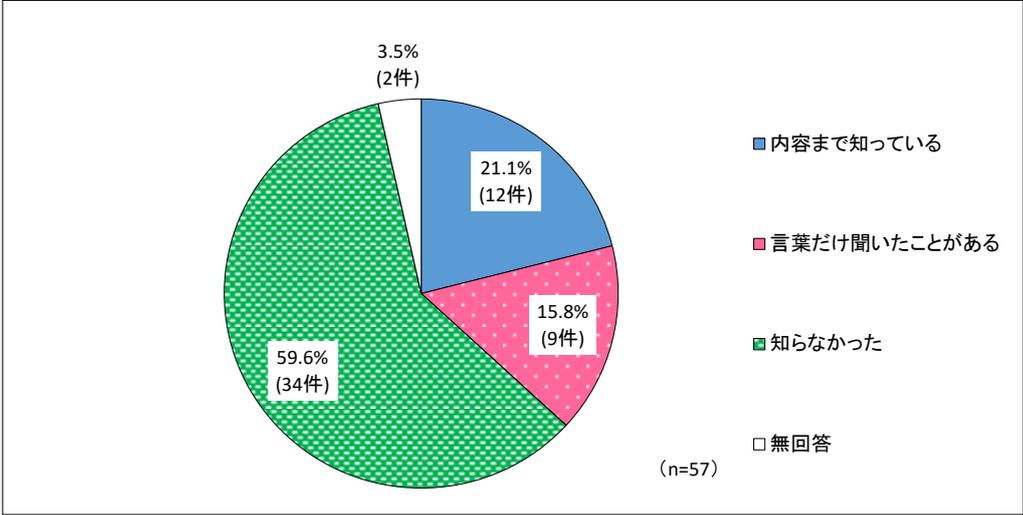
「内容まで知っている」が71.9%、「言葉だけ聞いたことがある」が17.5%となり、9割弱の認知度となった。前回調査（97.1%）に続き、高い割合となった。



秋田市「農家のパーティ」について

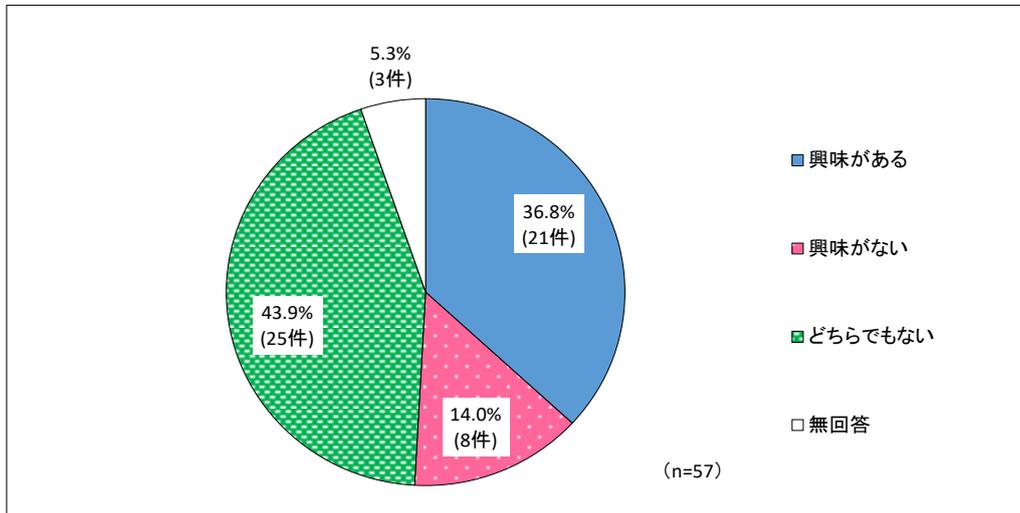
問 14 秋田市では、本市の農産品全体の価値向上と積極的な情報発信を図るため、平成 29 年 3 月に「秋田市農業ブランド確立総合戦略」を策定し、そのブランドネームを「農家のパーティ」としました。あなたは、「農家のパーティ」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで番号を記入してください。

「内容まで知っている」が21.1%、「言葉だけ聞いたことがある」が15.8%となり、4割弱の認知度となった。一方、「知らなかった」は59.6%と6割近くを占めた。



問 15 秋田市では、農家と事業者などが連携して行う地元産品を活用した特色ある事業活動を「農家のパーティ」プロジェクトとして、その取組を募集しています。あなたは、この取組に興味はありますか。次の中から、1つ選んで番号を記入してください。

「興味がある」が36.8%となった一方、「興味がない」が14.0%となり、興味があるとする意見の方が多くなっている。



問 16 あなたは、問 15 のような取組を行っていますか。次の中から、1つ選んで番号を記入してください。

「行っている」は10.5%と1割強にとどまったものの、「今後、行ってみたい」が24.6%と、今後の取組に意欲的な食料品関連事業者が一定数みられた。

